



2026年6月17日

### ディスタンスインサイトについて製造業者への告知

この告知では下記のポイントを通知いたします：

- 1) 2030年1月まで標準総合距離（ODS）への変更は行われぬ。
- 2) R&AとUSGAはエリートレベルでの将来の飛距離の増加ペースにより実質的に影響を与えることができる代替方法を再考するためにPGAツアー、DPワールドツアー、そしてその他の主要な利害関係者たちと緊密に連携していく。

R&AとUSGAはゴルフにおける飛距離をよりよく理解し、その影響を定量化し、対処する必要がある傾向があったのかどうかを評価することを目的として、2018年にディスタンスインサイトをスタートさせました。一連の正式なフィードバックプロセス、そして利害関係者たちとの数多くの会議を通じて、統括団体は標準総合距離（ODS）の「速度」と「打ち出し条件」へのゴルフ界全体での変更を2023年12月に発表しました。

2026年3月に統括団体は「告知とコメント」を通じて、当初発表された2段階の施行日（2028年と2030年）から単一の日程での施行（2030年）への潜在的な変更について、産業界からのフィードバックを要請しました。このフィードバックは、大多数が単一の日程での施行を支持していることを示していました。この告知は2030年1月まで標準総合距離（ODS）のテスト方法の変更は行われぬということを確認します。

さらに、統括団体とPGAツアーリーダーシップ、PGAツアープレーヤーアドバイザー会議（PAC）、DPワールドツアーリーダーシップ、そしてその他の利害関係者たちとの間で直近に建設的な議論が行われ、3つの主要な成果を生み出しました：(a)エリートレベルでの飛距離は引き続き増加していくという認識。(b)更新された標準総合距離（ODS）のテスト方法では望まれる結果が達成できないかもしれないというツアーからの懸念。(c)ゴルフ市場全体の混乱を最小限に抑えながら、将来の飛距離の増加ペースにより実質的に影響を与えることができる代替方法を再考するという共同の意思。

その文脈において、**統括団体はPGAツアーとDPワールドツアーの支持を受け、適切な今後の対応を決定するために、ローカルルールひな型の可能性を含め、取り得る幅広い代替案を評価するために連携していくことを通知する共同声明を発表いたします。**

この作業は今後数週間で本格的に開始され、私たちはどのような成果であってもできるだけ早急に業界にお戻しするという意欲を持って、主要な利害関係者たちと関わることになります。

この告知に直接関連するすべての質問はR&Aマーク・グラットン博士までメールでお寄せください（[equipmentstandards@randa.org](mailto:equipmentstandards@randa.org)）。